

## 国立民族学博物館研究報告 vol.18-3; 表紙, 目次ほか

雑誌名	国立民族学博物館研究報告
巻	18
号	3
発行年	1994-02-28
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10502/00009196">http://hdl.handle.net/10502/00009196</a>

1993—18<sub>卷</sub>3<sub>号</sub>

# 国立民族学博物館 研究報告



魚毒漁の社会生態

——ネパールの丘陵地帯におけるマガールの事例から—— 南真木人

オーストラリア連邦と先住民アボリジニ

——アボリジニ政策と人々の生活体験に関するノート—— 松山利夫

オリエンタリズム批判と文化人類学—— 太田好信

**Los Mixes ante la Civilización Universal: Reseña de las Observaciones y  
Reflexiones sobre los Cambios de la Sierra Mixe en los 1990s**

—— Etsuko Kuroda



国立民族学博物館

〒565 大阪府吹田市千里 万博公園 TEL. 06-876-2151

# 国立民族学博物館研究報告

18 卷 3 号

1993 年

## 目 次

魚毒漁の社会生態 ——ネパールの丘陵地帯におけるマガールの事例から——	南真木人	375
オーストラリア連邦と先住民アボリジニ ——アボリジニ政策と人々の生活体験に関するノート——	松山利夫	409
オリエンタリズム批判と文化人類学	太田好信	453
Los Mixes ante la Civilización Universal: Reseña de las Observaciones y Reflexiones sobre los Cambios de la Sierra Mixe en los 1990s	Etsuko Kuroda	495
彙 報		533
国立民族学博物館研究報告寄稿要項		540
国立民族学博物館研究報告執筆要領		541

BULLETIN OF THE NATIONAL MUSEUM OF ETHNOLOGY

---

Vol. 18 No. 3

1993

---

MINAMI, Makito	Socio-Ecology of Poison Fishing: A Case Study of the Magars in the Middle Hills of Nepal ..... 375
MATSUYAMA, Toshio	A Note on Government Policy and Urban Aborigines' Life Histories in Adelaide, South Australia ... 409
OTA, Yoshinobu	Anthropology and Postcolonial Criticism ..... 453
KURODA, Etsuko	Los Mixes ante la Civilización Universal: Reseña de las Observaciones y Reflexiones sobre los Cambios de la Sierra Mixe en los 1990s ..... 495

彙 報

(平成5年7月～  
平成5年9月)

人事異動  
(教育職)

(昇任)

- 7月1日 京都大学助教授 林 行夫  
(第二研究部助手)
- 7月16日 第二研究部教授 田邊 繁治  
(第二研究部助教授)
- 第三研究部教授 野村 雅一  
(第三研究部助教授)
- 第三研究部教授 吉田 集而  
(第二研究部助教授)
- 第五研究部教授 山本 紀夫  
(第四研究部助教授)
- 第二研究部助教授 杉島 敬志  
(第二研究部助手)

(配置換)

- 7月16日 第四研究部助教授 吉田 憲司  
(第五研究部助教授)
- 9月1日 第四研究部助手 安村 直己  
(東京大学助手)

(客員研究部門)

- 9月1日 第四研究部助教授 細川 弘明  
(佐賀大学助教授)

(外国人客員研究部門)

[着任]

- 9月16日 第五研究部教授 金 基 赫  
(アメリカ合衆国, 大韓民国浦  
項工科大学教授)  
<任期5.9.16～6.3.31>  
[任期満了]
- 9月15日 第五研究部教授  
HOCKINGS, Paul  
(イギリス, アメリカ合衆国イ  
リノイ大学教授)  
<任期5.4.1～5.9.15>
- 9月30日 第五研究部教授

SIMONSE, Simon

(オランダ王国, インドネシア  
共和国スリウィジャヤ大学アド  
バイザー)  
<任期4.10.1～5.9.30>

懇話会委員

[任期満了]

氏名 (任期)

6月30日 伴 恭二 (3.7.1～5.6.30)

[新任委員]

7月1日 谷口 文夫 (5.7.1～7.6.30)

シンポジウム

◎民族学部門第17回国際シンポジウム「東ア  
ジアの人類学と韓国研究——方法論的比較  
——」

期間 平成5年8月29日(日)

～9月5日(日)

場所 国立民族学博物館 求是荘

摘要 今回のシンポジウムでは、東アジア  
の人類学的研究のなかに韓国研究を  
位置づけ、韓国社会・文化研究のあ  
たらしい方向について活発な討論が  
おこなわれました。

顧問

梅棹 忠夫 財団法人千里文化財団会長

組織委員会

(委員長)

佐々木高明 国立民族学博物館長

(委員)

藤井 知明 国立民族学博物館副館長

石毛 直道 国立民族学博物館第一研究  
部長

杉村 棟 国立民族学博物館第二研究  
部長

和田 正平 国立民族学博物館第三研究  
部長

友枝 啓泰 国立民族学博物館第四研究  
部長

杉田 繁治 国立民族学博物館第五研究

部長  
 内藤 貞 国立民族学博物館管理部長  
 湯浅 毅子 財団法人千里文化財団専務理事

実行委員会  
 (委員長)  
 嶋 陸奥彦 広島大学総合科学部教授  
 国立民族学博物館第五研究部客員教授

(委員)  
 松澤 員子 国立民族学博物館第一研究部教授  
 近藤 雅樹 国立民族学博物館第一研究部助手  
 重松真由美 国立民族学博物館第一研究部助手  
 上杉 富之 国立民族学博物館第二研究部助手  
 朝倉 敏夫 国立民族学博物館第四研究部助手  
 加藤 建夫 国立民族学博物館研究協力課長  
 宇治日出二郎 財団法人千里文化財団常務理事

参加者

Roger L. Janelli  
 インディアナ大学準教授  
 (アメリカ合衆国)

金 光億 ソウル大学教授(大韓民国)  
 全 恵星 イースト・ロック・インスティテュート所長(アメリカ合衆国)

James L. Watson  
 ハーバード大学教授(アメリカ合衆国)

呂 重哲 嶺南大学教授(大韓民国)  
 劉 明基 慶北大学助教授(大韓民国)  
 朝倉 敏夫 国立民族学博物館助手  
 伊藤 亜人 東京大学教養学部教授

嶋 陸奥彦 広島大学総合科学部教授  
 国立民族学博物館第五研究部客員教授  
 末成 道男 東京大学東洋文化研究所教授  
 崔 吉城 中部大学国際関係学部教授  
 秀村 研二 明星大学日本文化学部専任講師  
 松澤 員子 国立民族学博物館教授

日程

平成5年8月29日(日)～9月5日(日)

8月29日(日)(千里阪急ホテル)  
 17:00 登録

8月30日(月)(国立民族学博物館)  
 13:00 開会式  
 第1セッション  
 (座長:嶋 陸奥彦)  
 13:30 Some Aspects of Yangbanization  
 朝倉 敏夫  
 14:15 討論

第2セッション  
 (座長:全 恵星)  
 13:30 A Comparative Study of Ancestor  
 Worship in East Asia 崔 吉城  
 14:15 討論

8月31日(火)(国立民族学博物館)  
 第3セッション  
 (座長:伊藤 亜人)  
 10:00 Locality and Segmentation of Lineage in Korea 劉 明基  
 10:45 討論

第4セッション  
 (座長:金 光億)  
 13:00 Korean Genealogies: Reconstruction of the Past 嶋 陸奥彦  
 13:45 討論

第5セッション  
 (座長:崔 吉城)  
 15:00 Some Characteristics of Traditional Korean Kinship Structure: An Analysis of Criminal Cases of the

Choson Dynasty 全 惠星  
 15:45 討 論  
 9月1日(水)(国立民族学博物館)  
 第6セッション  
 (座長:朝倉 敏夫)  
 10:00 Unilateral Kindred: A Reconsideration in East Asian Societies  
 末成 道男  
 10:45 討 論  
 第7セッション  
 (座長: Roger L. Janelli)  
 13:00 Various Conflicts in Korean Clan Villages 呂 重哲  
 13:45 討 論  
 14:30 京都へ移動 ホテルギンモンドへ  
 9月2日(木)  
 京都観光  
 大津へ移動  
 9月3日(金)(求是荘)  
 第8セッション  
 (座長:末成 道男)  
 10:00 Reproduction of Confucian Culture in Social and Political Context of Contemporary Korea  
 金 光億  
 10:45 討 論  
 第9セッション  
 (座長:秀村 研二)  
 13:00 Coordination and Brokerage—Leadership in Community Development in Rural Korea 伊藤 亜人  
 13:45 討 論  
 第10セッション  
 (座長:呂 重哲)  
 15:00 The Genealogy of “Making Harmony” among Co-workers of a South Korean Conglomerate  
 Roger L. Janelli  
 15:45 討 論  
 9月4日(土)(求是荘)  
 第11セッション  
 (座長:劉 明基)

10:00 Social Change and Christianity in Modern Korean Society  
 秀村 研二

10:45 討 論

総括報告/総合討論

13:00 総括報告①: James L. Watson

総括報告②: 松澤 員子

総合討論 座長: Roger L. Janelli

嶋 陸奥彦

16:30 閉会式

9月5日(日)(ホテルレークビワ)

第11セッション

10:00 ワークショップ

解散

◎「シナ・チベット系諸民族の言語文化——東アジア諸言語のダイナミズムを求めて——」

期間 平成5年9月13日(月)

～9月17日(金)

場所 国立民族学博物館

摘要 シナ・チベット系諸言語と周辺の言語群の歴史的・共時的諸問題と言語文化について東アジア全体の言語グループの相互関係に関するより広い枠組みを構築するため、活発な討論がおこなわれました。

組 織

代表者

佐々木高明 国立民族学博物館長

運営委員会委員

北村 甫 東洋文庫理事長

西田 龍雄 学術情報センター企画調整官

石井 米雄 上智大学教授

平山 久雄 早稲田大学教授

梅棹 忠夫 財団法人千里文化財団会長

西 義郎 神戸市外国語大学教授

中嶋 幹起 東京外国語大学教授

藪 司郎 大阪外国語大学教授

辻 伸久 慶應義塾大学教授

柴谷 方良 神戸大学教授

武内 紹人	京都教育大学助教授	9月13日 (月) (国立民族学博物館)	
藤井 知昭	国立民族学博物館企画調整 官	11:00	登 録
崎山 理	国立民族学博物館教授	13:00	基調講演 『シナ・チベット語族管見』 西田 龍雄
栗田 靖之	国立民族学博物館教授	15:00	パネル・ディスカッション 『シナ・チベット言語学における 問題と発展』 パネラー：西田 龍雄 David Bradley George van Driem 戴 慶厦 唐 作藩 孫 宏開
立川 武藏	国立民族学博物館教授		
長野 泰彦	国立民族学博物館助教授 (座長)		
招待講演者			
国 外			
David Bradley	ラトロープ大学教授 (オー ストラリア)	9月14日 (火) (国立民族学博物館)	
Inga-Lill Hansson	ルンド大学教授 (スウェー デン)	9:00	ワークショップ 『上古漢語』 李 栄 『ビルマ言語学』 Inga-Lill Hansson
George van Driem	ライデン大学教授 (オラン ダ)	13:00	ワークショップ 『中国大陸における統語発展論』 游 汝傑 『タイ言語学』 戴 司郎
戴 慶厦	中央民族学院教授 (中華人 民共和国)	15:30	ワークショップ 『オーストロタイ言語学』 James A. Matisoff
唐 作藩	北京大学教授 (中華人民共 和国)	16:00	ワークショップ 『中国大陸における言語接触〈北 部〉』 中嶋 幹起
李 栄	中国社会科学院教授 (中華 人民共和国)	9月15日 (水) (国立民族学博物館)	
孫 宏開	中国社会科学院教授 (中華 人民共和国)	9:00	ワークショップ 『中国大陸における言語接触〈南 部〉』 辻 伸久 『チベット言語学』 北村 甫
游 汝傑	复旦大学教授 (中華人民共 和国)	13:00	ワークショップ 『シナ・チベット語類型論』 柴谷 方良
国 内			
北村 甫	東洋文庫理事長	16:00	ワークショップ 『西夏言語学』 西田 龍雄
西田 龍雄	学術情報センター企画調整 官	9月16日 (木) (国立民族学博物館)	
平山 久雄	早稲田大学教授	9:00	ワークショップ 『チベット・ビルマ語統辞論』
西 義郎	神戸市外国語大学教授		
中嶋 幹起	東京外国語大学教授		
戴 司郎	大阪外国語大学教授		
辻 伸久	慶應義塾大学教授		
柴谷 方良	神戸大学教授		
武内 紹人	京都教育大学助教授		
日 程			
平成5年9月13日 (月) ~ 9月17日 (金)			



西 義郎

9:00 全体討論  
『中国語の声調』 平山 久雄

13:00 ワークショップ  
『チベット・ビルマ語形態統辞論』  
Boyd Michailovsky

13:00 全体討論  
『中国語統語論』 平山 久雄

9月17日(金)(国立民族学博物館)

9:00 全体討論  
『中国語文法』 Søren Egerod  
『中国語音韻論と方言』  
Alain Peyraube

『チベット・モンゴル研究』  
立川 武藏

『社会言語学』 Gérard Diffloth

10:30 全体討論  
『チベット語研究』 武内 紹人

12:30 全体討論  
『アッサム・ネワール言語学』  
Purna Thoudam

13:00 全体討論  
『中国語文法』 Randy LaPolla  
『中国語統語論』 Julian Wheatley  
『オーストロ・アジア言語学』  
崎山 理

海外における研究・調査・収集活動

氏名	官職	出発	帰国	行先
江口 一久	助教授(第三研究部)	5. 7. 1	5. 7.10	大韓民国
田邊 繁治	助教授(第二研究部)	5. 7. 1	5. 7.18	イギリス
大森 康宏	助教授(第五研究部)	5. 7. 4	5. 8.10	フランス, イタリア
和田 正平	教授(第三研究部)	5. 7.10	5. 7.22	タンザニア
庄司 博史	助教授(第三研究部)	5. 7.14	5. 9.16	エストニア, ロシア, フィンランド
立川 武藏	教授(第二研究部)	5. 7.15	5. 7.31	インド, ネパール
江口 一久	助教授(第三研究部)	5. 7.16	5. 8.10	中華人民共和国
中牧 弘允	助教授(第一研究部)	5. 7.24	5.10.23	ブラジル
藤井 知昭	教授(第二研究部)	5. 7.25	5. 8. 3	中華人民共和国
八杉 佳穂	助教授(第四研究部)	5. 7.26	5. 9.22	メキシコ, グアテマラ, ベリーズ, ホンジュラス
松澤 員子	教授(第一研究部)	5. 7.29	5. 8. 5	台湾
小長谷有紀	助教授(第一研究部)	5. 7.29	5. 8.14	中華人民共和国
南 真木人	助手(第三研究部)	5. 7.30	5. 8.24	ネパール
小山 修三	教授(第四研究部)	5. 8. 2	5. 8.14	デンマーク, ノルウェー, アイス ランド
栗田 靖之	教授(第二研究部)	5. 8. 8	5. 9. 5	ブータン, インド, ケニア
藤井 知昭	教授(第二研究部)	5. 8. 9	5. 8.28	ラオス
立川 武藏	教授(第二研究部)	5. 8.17	5. 9. 9	中華人民共和国
佐藤 浩司	助手(第四研究部)	5. 8.25	5.12.24	マレーシア
山本 紀夫	教授(第五研究部)	5. 8.27	5.11.14	ペルー, ボリビア, エクアドル, グアテマラ, メキシコ, キューバ, ジャマイカ, ドミニカ
塚田 誠之	助教授(第二研究部)	5. 8.30	5. 9.13	中華人民共和国
田邊 繁治	教授(第二研究部)	5. 9. 6	5.12.31	タイ
石毛 直道	教授(第一研究部)	5. 9. 7	5. 9.17	台湾

熊倉 功夫	教授 (第一研究部)	5. 9. 8	5. 9.17	台湾
大塚 和義	教授 (第五研究部)	5. 9. 8	5. 9.30	ロシア
吉田 憲司	助教授 (第四研究部)	5. 9.11	5.12.10	ザンビア, イギリス
栗田 靖之	教授 (第二研究部)	5. 9.17	5. 9.26	フランス, イギリス
立川 武蔵	教授 (第二研究部)	5. 9.30	5.10.31	アメリカ合衆国

来館者抄

7月1日	青山 瑩純(三重県教育委員会) 藤本 達生(財団法人日本エス ペラント学会理事)	7月19日	黒宮 哲之(三重県三雲町長), 世古 勝(三重県三雲町総務 課長), 松浦 清
7月6日	王 劍(中華人民共和国, 少年官音楽講師), 胡 爽 (中華人民共和国, 音楽講師)	7月23日	タイ王国行政委員会訪日研修団 一行
7月12日	新行内孝男(駒沢オリンピック 公園総合運動場副所長)他3名	7月27日	角山 榮(堺市博物館長)
7月13日	高井 三郎(野外民族博物館リ トルワールド部長), 亀井 哲 也(野外民族博物館リトルワ ールド学芸研究員)	7月29日	遠山 庄治(沖縄国際大学工学 部教授) ブラジル日本語教師訪日研修団 一行 団長: 尾崎 守 他9 名
7月14日	木村 五郎(松本油脂製菓株式 会社代表取締役) フォーラム大阪一行 座長: 加 藤 秀俊(放送教育開発セン ター所長), 山室 英男(日本 放送出版協会顧問), 伊藤 滋(東京大学名誉教授), 高原 須美子(経済評論家), 深田 宏(伊藤忠商事顧問), 宮崎 勇(株式会社大和総研理事 長), 原 正敏(大阪府企画 調整部長)	8月3日	小笠原 暁(芦屋大学教授), 黒木 勝実(宮崎県椎葉村助役) 山崎 朋子(作家)
7月15日	天羽 利夫(徳島県立博物館副 館長), 鎌田 麿人(徳島県立 博物館学芸員)	8月5日	伊藤 恭一(昭和報公会理事 長), 原山 昌三(昭和報公会 事務長) LECLANT, Jean(フランス共和 国, フランス学士院碑文・文芸 アカデミー終身事務局長) 夫妻
7月16日	石井 進(国立歴史民俗博物 館長)	8月8日	森山 眞弓(文部大臣), 尾山 (秘書官), 遠藤 昭男(文部 省体育局体育課長)
		8月9日	岩井 宏實(国立歴史民俗博物 館民俗研究部長)
		8月16日	HIRANBURANA, Samang (タイ 王国, Srinakharinwirot 大学

- Research and International Relation 副部長)**
- 9月3日 田中 一郎 (大阪大学附属図書館長)
- 9月8日 **SEDYAWATI, Edi** (インドネシア共和国, 教育文化省文化総局長), **SATARI, Sri Soejatmi** (インドネシア共和国, 教育文化省博物館局長), **KARTIWA, Suwati** (インドネシア共和国, インドネシア国立博物館長)
- 9月13日 渡辺 一雄 (文部省学術国際局国際学術課国際学術調整官)
- 9月14日 **VUONG, Toan** (ベトナム社会主義共和国社会科学院言語文学部副部長)
- 9月15日 **LIELOP, Robert F.** (バヌアツ共和国国連常駐大使), **MOUMIN, Amini Ali** (コモロ・イスラム連邦共和国国連常駐大使)
- 9月16日 坪内 良博 (京都大学東南アジア研究センター所長)
- 9月17日 安澤 秀一 (記録管理学会会長), 戸田 光昭 (姫路獨協大学教授), 藤本ますみ (聖泉短期大学助教授)
- 9月21日 **CRUZ, Jose Luis** (メキシコ合衆国, メキシコ国立人類学博物館副館長) 夫妻, **TERAN, Veronica** (メキシコ合衆国, 女優)  
下中 直也 (財団法人地図情報センター専務理事), 久田 龍二 (財団法人地図情報センター事務局長)
- 9月24日 上海市消防防災専門家訪日団一行 団長: 顧 永和 (中華人民共和国, 上海市公安局長助理), 徐 耀 標 (中華人民共和国, 上海市消防局長), 陳 飛 (中華人民共和国, 上海市消防学校長), 沈 友 弟 (中華人民共和国, 上海市消防局建築處長)
- 9月29日 **Poeger GBPH** (インドネシア共和国, 教育文化省前文化総局長) 夫妻

## 国立民族学博物館研究報告寄稿要項

1. 国立民族学博物館研究報告は、民族学（文化人類学）に関する論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等を掲載・発表することにより、民族学（文化人類学）の発展に寄与するものである。
2. 国立民族学博物館研究報告に寄稿することができる者は、次のとおりとする。
  - (1) 国立民族学博物館（以下「本館」という。）の教官（客員教授等を含む。）及び本館の組織、運営に関与する者
  - (2) 本館が受け入れた各種研究員及び研究協力者
  - (3) その他本館において適当と認められた者
3. 原稿を寄稿する場合は、論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等のうち、いずれであるかをその表紙に明記するものとする。なお、この区分についての最終的な調整は、国立民族学博物館研究報告編集委員会（以下「編集委員会」という。）において行う。（編集する場合は、原則として論文及び資料・研究ノートを1段組、その他のものを2段組として取り扱う。）
4. 原稿執筆における使用言語は、日本語、英語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語及びドイツ語のうちいずれを用いても差し支えない。ただし、その他の言語を用いる場合は、編集委員会に相談するものとする。
5. 特殊な文字、記号、印刷方法等が必要な場合は、編集委員会に相談するものとする。
6. 寄稿する原稿が論文で、日本語を使用する場合は、原則として英文により500語程度の要旨を付けるものとし、その他の言語による論文の場合は、編集委員会に相談するものとする。なお、寄稿する原稿については、執筆者名のローマ字表記及び原稿表題の英文を付記しなければならない。
7. 寄稿する原稿の枚数は、原則として制限しない。ただし、編集する場合は編集委員会の判断により、紙数等の関係から分割して掲載することがある。
8. 寄稿する原稿は、必ず清書（欧文の場合はタイプ）し、原稿の写し1部を添付するものとする。なお、図、表のスマ入れ、レタリングは、編集委員会で処理する。
9. 寄稿された原稿は、審査委員会において審査のうえ、採否を決定する。なお、原稿は、採否にかかわらず原則として返却しない。
10. 稿料の支払い、掲載料の徴収は行わない。
11. 原稿の執筆に当っては、別に定める「国立民族学博物館研究報告執筆要領」による。
12. 原稿の寄稿先及び連絡先は、次のとおりとする。

〒565 大阪府吹田市千里 万博公園10-1

国立民族学博物館内

国立民族学博物館研究報告編集委員会（電話 代表06-876-2151）

## 国立民族学博物館研究報告執筆要領

1. 原稿は、200字詰原稿用紙を使用し、横書きとする。
2. 原稿は、図、表を除き、原則として黒インクを使用する。
3. 日本語を使用して執筆する場合は、原則として当用漢字、現代かなづかいを用いる。
4. 句読点、括弧、各種記号等は、原則として原稿用紙のマス目1字分の扱いをする。
5. 原稿中の年号、月日及びその他の数字は、原則としてアラビア数字を用いる。なお、年号は、原則として西暦とする。
6. 図及び表は、一図、一表ごとに別紙に書き、本文とは別に一括して添付するものとする。なお、図、表ごとに通し番号（「図1」、「表1」等の要領により記入）、図、表名及び説明並びに出典等を記し、本文原稿の欄外には、それぞれのそう入箇所を指定するものとする。
7. 写真は、写りの明瞭なもので、手札判以上の大きさに焼き付けたものに限り、図及び表の扱いに準じて通し番号、説明を付けたらえ、そう入箇所を指定するものとする。ただし、カラー写真は、原則として受け付けない。
8. 本文又は脚注において文献を指示する場合は、カギ括弧を付け、著者名、文献刊行年次、引用ページ数の順に下記の例に従って記載する。  
[柳田 1942: 67-69]  
[Leach 1961: 123]  
[柳田 1942: 67-69, 1944: 20-22; Leach 1961: 123]  
ただし、同年次刊行物の場合は、アルファベット順により、下記のように記載するものとする。  
[柳田 1942a: 20-22] [柳田 1942b: 10]
9. 脚注は、一つ一つ別紙に記し、通し番号を付ける。なお、本文中に脚注をそう入する箇所には、脚注の当該番号を記入し、別紙の脚注には、本文のページ数を明記するものとする。
10. 本文及び脚注において参照した文献は、すべて原稿の末尾にまとめて下記の方法により記入する。

(1) 文献の配列は、著者名のアルファベット順とすること。

(2) 文献の記載は、著者名、年号、論題（タイトル）、誌名、巻、号、出版社名の順とすること。

欧文の雑誌名及び単行本名は、イタリック体にするため、原稿には下線を引くこと。また、ローマ字人名は、スモール・キャピタルとするため、二重下線を引き、日本文の場合は、論題にカギ括弧、雑誌名及び単行本名に二重のカギ括弧を付けること。雑誌の巻数及び号数は、原則としてアラビア数字を用いること。

(例)

論文の場合 (1)

石田英一郎

1948 「文化史的民族学成立の基本問題」『民族学研究』13 (4): 311-330。

Bohannan, P.

1973 Rethinking Culture: A Project for Current Anthropologist. Current Anthropology 14 (4): 357-372.

論文の場合 (2)

杉浦 健一

1942 「民間信仰の話」柳田国男編『日本民俗学研究』岩波書店, pp. 117-143。

Leach, Edmund

1964 Anthropological Aspects of Language: Animal Categories and Verbal Abuse. In Eric H. Lennenberg (ed.), New Directions in the Study of Language, The M. I. T. Press, pp. 23-63.

単行本の場合

泉 靖一

1966 『文明をもった生物』日本放送出版協会。

Murdock, George P. (ed.)

1960 Social Structure in Southeast Asia. Viking Fund Publications in Anthropology No. 29, Wenner-Gren Foundation for Anthropological Research, Inc.

翻訳書の場合

エリアーデ, M.

1974 『シャーマニズム——古代的エクスタシー技術——』堀一郎訳 冬樹社。

van Gennep, Arnold

1960 The Rites of Passage. M. B. Vizedom and G. L. Caffee, trans., The University of Chicago Press.

国立民族学博物館研究報告 18卷3号

〔監 修〕

佐々木 高 明

〔編集委員長〕

友 枝 啓 泰

〔編集委員〕

朝 倉 敏 夫

江 口 一 久

近 藤 雅 樹

崎 山 理

清 水 昭 俊

新 免 光 比 呂

田 村 克 己 彦

長 野 泰 一 彦

野 村 雅 一 夫

松 山 利 夫

吉 田 集 而

---

平成 6 年 2 月 28 日 発 行 非 売 品

国立民族学博物館研究報告 18卷3号

編集・発行 国立民族学博物館  
〒565 吹田市千里万博公園 10-1  
TEL 06 (876) 2151(代表)

印 刷 中西印刷株式会社  
〒602 京都市上京区下立売通小川東入  
TEL 075 (441) 3155(代表)

---

**Bulletin of the National Museum of Ethnology**  
**vol.18 no.3**  
**1993**

- MINAMI, Makito**      **Socio-Ecology of Poison Fishing: A Case Study of the Magars in the Middle Hills of Nepal**
- MATSUYAMA, Toshio**      **A Note on Government Policy and Urban Aborigines' Life Histories in Adelaide, South Australia**
- OTA, Yoshinobu**      **Anthropology and Postcolonial Criticism**
- KURODA, Etsuko**      **Los Mixes ante la Civilización Universal: Reseña de las Observaciones y Reflexiones sobre los Cambios de la Sierra Mixe en los 1990s**



**National Museum  
of Ethnology**

Senri Expo Park, Suita, Osaka, Japan  
phone 06-876-2151

**ISSN 0385-180X**